

<チャリティ専門部会 開催概要>

- 【日時】 2013年1月29日（火） 10時～11時
- 【会場】 読売新聞大阪本社
- 【出席者】 座長 橋爪紳也氏（大阪府立大学 特別教授）
委員 杉本厚夫氏（関西大学 人間健康学部教授）
尾上達郎氏（読売光と愛の事業団 理事）
徳永真一郎氏（電通関西支社 統合ソリューション局長）
窪田邦倫（読売新聞大阪本社 取締役事業本部長）
進行 橋本誠司（読売新聞大阪本社 大阪マラソン事務局長）
- 【議事】 （1）第2回大阪マラソンチャリティ事業の実施報告について
（2）第3回大阪マラソンチャリティスキームについて
（3）第3回大阪マラソンチャリティ事業の実施計画について

【議事録（要旨）】

（1）第2回大阪マラソンチャリティ事業の実施報告について

第2回大阪マラソンへの寄付金総額は、第1回大会の約2・3倍の約4521万円にのぼった。第2回大会からチャリティスキームを変更し、参加するランナーからの寄付金額を2口以上（1口＝500円）に見直したことも影響している。とりわけ、東日本大震災被災地の復興支援に役立ててもらおうという趣旨で取り組んだ「虹色」のテーマについては、3倍以上という結果になった。読売光と愛の事業団から、震災で被災した作業所から公募で助成先を決定し、再建支援にあてることの報告があった。募金額の使途など詳細については、大阪マラソンのホームページなどで1月30日に公表する。

（2）第3回大阪マラソンチャリティスキームについて

※寄付先団体の選定に関わる内容のため、読売光と愛の事業団の尾上委員は一時退席

①エントリーの時点における「チャリティスキーム」については、参加ランナーから受け取るチャリティを2口（1口＝500円）以上にするなど、第2回大会から新たに取入れた枠組みを第3回大会も引き継ぐ。チャリティテーマについても、東日本大震災からの復興が道半ばであることを鑑み、本来の7色に被災地支援の「虹色」を加えた8つのテーマを継続する。

②大阪マラソン寄付先団体のラインナップについては、選別・決定のプロセスを含めて見直す。現在の寄付先団体は、第1回大会に先立ち、組織委員会からチャリティプログラムの内容の検討を付託されている「チャリティ専門部会」が、それぞれの団体の実績などを基準に選別した。第2回大会時にも活動内容を再確認したうえで継続を決定した。大阪マラソンが「チャリティマラソン」であることを定着させていくために、選別の過程でさらなる公平性・中立性を担保し、寄付先団体どうしが切磋琢磨するような環境整備を進めていく。将来的には「公募制」など一般から募集する方式に移行するべきであると判断する。

③第3回大会は過渡期として、これまで大阪マラソンのチャリティに取り組んできた9つの寄付先団体を対象に、第3回チャリティスキームに基づき希望申請を求める。チャリティ専門部会において、その実績や積極性などを基準に審査し決定する。第4回大会以降の寄付先団体の具体的な募集の仕方は、次回の専門部会で協議する。

(3) 第3回大阪マラソンチャリティ事業の実施計画について

①寄付金額の拡大に向けて、参考になるのは、ロンドンマラソンやシカゴマラソンだ。寄付先団体が主催者から「出走権」を購入し、抽選に落選したランナーに購入価格を上回る価格で販売する仕組みで、その差額が「寄付金」となる。ただ、日本ではチャリティ文化が根付いていないこともあり、そのまま導入するのは時期尚早の面もある。

②将来的なロンドン・シカゴマラソン方式導入への移行を見据えたうえで、抽選で落選したランナーを対象に、チャリティテーマ（＝寄付先団体）を選択させ、目標額の寄付金を集めた場合に限って「出走権」を提供する仕組みを導入してはどうか。

③寄付金を集める手法としては、「ジャスト・ギビング・ジャパン」が運営する特設サイトを活用する。寄付先団体は、自身のテーマを選択したランナーが、目標となる寄付金を集め、「出走権」を手に入れられるように、自身で管理するメルマガなどで当該ランナーへの寄付を呼びかけることなどで応援してもらうようにする。

以上